

伊那北高校生徒と伊那市議会との意見交換会 報告書

伊那市議会では、政治や地域への若者の関心を高め、全員に投票に行ってもらうこと、議員に立候補したいと思う若者を増やすことなどを目的に、傍聴の呼びかけや意見交換を行っています。

今回は、伊那北高等学校の生徒の皆さんが伊那市議会を訪れ、探究活動「防災」について発表し、伊那市議会議員との懇談を行ないました。

1 意見交換会

(1) 開催日程・会場 令和7年8月25日(月) 午後1:30～3:30 伊那市役所

午後1:30 全体会 開会 議場(学習発表)

午後2:10 グループ懇談 議長室、議長応接室ほか

午後2:50 全体会 閉会 議場(懇談内容発表、生徒代表感想、講評)

午後3:30 終了

(2) 参加者

生徒32人、教員3人、議員21人、議会事務局4人

(3) 内容

①全体会

(発表)

- ・「学際コースについて」 杉山 愛菜
- ・「高齢者と防災」 井口 実柚・中村 葉
- ・「子どもと防災」 酒井 日菜子・河合 愛実
- ・「外国人と防災」 大槻 恵永ケリー・佐野 水麻

②グループ懇談

グループ構成： 7グループ(1グループ 生徒4～5人、議員3人)

会 場：議長室、議長応接室、第2委員会室(西)、第2委員会室(東)、
理事者控室、議員控室(北)、議員控室(南)

テーマ：各グループで設定

2 生徒から出された意見

(1) 高校生からの要望事項

ア 交通・駅について

- ・伊那北駅の改札口増設、待合室のエアコンや照明の整備（各班）
- ・伊那北駅前の歩車分離及び歩道橋の設置（1班）
- ・自転車通学路の整備（7班）
- ・公共交通機関（電車・バス）の運賃引き下げ、ダイヤ改正と本数増加（各班）
- ・体育館取り壊しに伴う、部活動における他校までの移動用マイクロバスの確保（3班）

イ まちづくり・施設について

- ・学生が利用できる自習室や学習スペースの増設（各班）
- ・学生が気軽に集まれる交流スペースやカフェの設置（1班）
- ・商業施設の誘致（6班）

ウ 行政サービスについて

- ・「子育てするなら南箕輪村」と言われる現状の改善、子育て支援策の強化（2班）
- ・避難所における防犯対策とスペース確保（4班）
- ・防災用品の備蓄義務化など、市民の防災意識を高めるための施策（4班）
- ・外国人向けの防災情報提供と、地域コミュニティへの組み込み（4班）
- ・外国人や若者にも分かりやすい情報発信（各班）

(2) 高校生からの主な意見

ア 若者のUターンを促すための「仕事」と「生活」の充実

- ・多くの生徒が地元への愛着を示しつつも、就職先の選択肢が限られている。特に、製造業は多いが、第三次産業（サービス業）が少ない。
- ・都会との給与格差の解消や、多様な職種へ期待したい。
- ・公共交通が不便で、娯楽や交流スペースも少なく、若者の定住やUターンを妨げる要因と感じている。

イ 公共インフラの改善

- ・公共交通機関の利便性向上は、各班で共通して挙げられた論点であり、電車は、本数の増便、運賃の引き下げ、駅舎の改善（改札口の拡張、待合室のエアコン設置、照明時間延長）が必要。

- ・道路は、歩道の整備、危険な交差点の改善（伊那北駅前交差点の歩道橋の設置等）など、日常の移動に関する安全性が大事。

ウ 魅力的なまちづくりの方向性

- ・若者が求める「魅力的なまち」については、都会の模倣ではなく、伊那市が持つ「自然の豊かさ」という強みを生かすべき。
- ・自習室やカフェ、交流スペースなど、学生の学習・交流ニーズに応える場所の充実を求める意見があった。
- ・高遠町商店街の無電柱化のように、既存の魅力をさらに引き出す「街並みの整備」や、伊那北駅周辺への商業施設（ドン・キホーテ、コストコなど）の誘致についても必要。

エ その他

- ・県外で就職して見聞を広めたい、伊那市や長野県内で教職や公務員、家業を継ぐなどして働きたい、地元で希望する職種が少ない。
- ・伊那北高校の体育館の取り壊しに伴い、部活動の移動手段としてマイクロバスを確保して欲しい。
- ・議会への若者の政治参加を促すために、広報や公約をわかりやすくして欲しい。
- ・災害時における外国人への情報伝達や避難所の環境を改善してほしい。

（３）各班で出された意見

【１班】「若者のＵターンには何が必要か」

- ・Ｕターンに向けて、仕事では都会に比べて第三次産業やサービス業が圧倒的に少ない、交通では公共交通機関（電車・バス）の本数が少なく運賃も高い、駅では伊那北駅の改札口が狭く混雑する、踏切がなかなか開かない、スクランブル交差点を歩道橋にして欲しい。
- ・地元就職については、地元への貢献意欲はあるが、東京での就職や県外での見聞を広めたい、県内で教職に就きたい、家業のサポートを考えている。
- ・伊那北駅周辺に自習室が欲しい。スターバックス、ドン・キホーテ、ガストといった商業施設を誘致して欲しい。

【２班】「メディアと発信、進路、大人への要望」

- ・交通では、正午前後の電車がいない、伊那北駅舎の待合室や改札口が狭い、伊那北駅周辺へ学習室を設置して欲しい。
- ・外部から客を呼べるコストコのような商業施設が欲しい。

- ・「子育てするなら南箕輪村」というイメージがあり、伊那市も子育て施策に力を入れて欲しい。
- ・若者の政治参加については、SNSを通じた政治家へのイメージと実際の印象の違いがある、選挙前はSNSで情報を得るがインパクトのある発信に影響されやすい。

【3班】「若者が集うまち」

- ・東京などの大都市を真似るのではなく、伊那市独自の自然の良さを生かした講演などのまちづくりをしてほしい。
- ・伊那市では、自然体験や好きなことと仕事が両立できると良い。
- ・地元での起業や職種が増えている、都会の給与格差の解消して欲しい。
- ・移動手段として、公共交通機関（飯田線）の本数増加や、高校生や若者の行動範囲を広げるために、自動アシスト自転車やスクーターのレンタルがあると良い。
- ・居場所として、駅前などに勉強や交流ができる居場所や自習スペースが欲しい。
- ・伊那北高校の体育館取り壊しに伴い、部活動での移動用マイクロバスが欲しい。

【4班】「防災について」

- ・外国人コミュニティと地域住民が連携して情報共有できる仕組みづくりとして、英語教師の母親の助言から、外国人向けの「やさしい日本語」やピクトグラムを活用して欲しい。
- ・避難所の防犯やスペースが不足している。
- ・地域が高齢者夫婦の居住状況を把握しきれていないことから、小さなコミュニティづくりを考えて欲しい。
- ・防災意識として、住民一人ひとりの防災品準備の義務付けが必要ではないか。

【5班】「若者の政治参画、若者にとって魅力的なまちづくり」

- ・選挙権を得るにあたり、政治情報の集め方について質問、議員からは公報や市報、日常生活の疑問から関心を持つことなどを提案。
- ・広報は、難しい言葉が多く、分かりやすくして欲しい。
- ・まちづくりでは、都会を真似るのではなく、自然を活かしたまちづくりが良い。
- ・自習室とは異なる、みんなで集まって交流できるスペースが欲しい。
- ・移動手段として、バス運賃が高く、自転車の道も整備が悪く、移動が不便。

【6班】「18歳からの選挙権を持つにあたり議員に聞いてみたいこと」

「住むまちで将来やってみたいこと」

- ・選挙では、どの政党を選べばよいかわからない、SNS 情報に偏りがあり、政治に興味を持てない。
- ・松本や岡谷が遊びに行く場所になっている。伊那市は観光資源が少なく、動物園があると良い、外国人が訪れるような城下町の整備をして欲しい。
- ・週末に若者が遊びに行ける場所が少なく、駅近くの商業施設や古着屋など、学生が欲しいお店が増えると良い。

【7班】「若者が集まる魅力的な街」「Uターンについて」

- ・長谷地区の交通は不便で、部活後のちょうどよい便がない。
- ・自転車での登下校時、車道も歩道も走りにくい。
- ・伊那北駅の送迎時の安全性向上のため、歩車分離をして欲しい。
- ・市内の学習スペースが混雑しており増設して欲しい。
- ・伊那北駅に待ち時間を過ごせる場所やコンビニを設置して欲しい。
- ・地元への愛着はあるが、希望する仕事がなく、都会でしかできない仕事への憧れがある。

3 生徒から出された意見に対する市議会の考え、対応

ア 交通について

高校生から出された意見
①伊那北駅前の歩車分離と歩道橋の設置 ②自転車通学路の整備 ③伊那北駅の改札口増設、待合室のエアコンや照明の整備 ④公共交通機関（電車・バス）の運賃引き下げ・本数増加
市議会としての考え・対応
① 市では伊那北駅周辺を再整備する方針で、総合的に検討をしており、商店街や高校生の思いを汲みながら検討していきたいと考えているとのことです。市議会としても、高校再編をきっかけとしたまちづくり推進事業の中に反映されるよう働きかけていきます。 ② 市では道路の補修、修繕に関しては、地域からの要望を受けて、優先順位をつけて予算の範囲内で実施しています。市議会としては、高校再編を契機としたまちづくりにおいて、自転車通学路の整備を含む登下校時の危険箇所の解消や、安心な通学環境の構築など、若者が安心して通学できる環境づくりを求めてまいります。 ③④ 路線バスは、利用者が減少傾向にあり、便数を増やしたりすることは難しい状況ですが、高校の再編を踏まえ、新しいまちづくりの中で引き続き研究していきます。 JR飯田線は、毎年、沿線の各高等学校からの要望を取りまとめ、JR東海に伝えていきます。利便性向上のためには、粘り強く働きかけを行う必要がありますので、学校を通じて皆さんの声をお寄せください。

イ まちづくり・施設について

高校生から出された意見
<p>①学生が利用できる自習室や学習スペースの増設</p> <p>②学生が気軽に集まれる交流スペースやカフェの設置</p> <p>③商業施設の誘致</p>
市議会としての考え・対応
<p>①② 市では、高校生が自由に立ち寄れる学習スペースとして、生涯学習センター、図書館、創造館、alla があり、各公民館でも職員がいる時間帯に自習スペースを設けています。テスト期など混雑することもあります「常に満員ではない」ため需要には概ね対応できている、満員時は会議室開放や近隣施設の紹介で対応しているとしています。</p> <p>市議会としては、これまでの要望を単なる記録で終わらせないため、伊那北駅周辺の高校生の居場所づくりを最優先課題に考えます。空き店舗の利活用などの具体的な提案を踏まえ、若者が主役となって交流できる場の実現に向け、これまで以上に強い姿勢で市に対し具体的な進展を求めてまいります。</p> <p>③ 商業施設の充実など生徒の思いや声を出せる場として意見交換会は大切であり、市議会としては、今後も引き続き継続して意見交換会を実施していきます。</p>

ウ 行政サービスについて

高校生から出された意見
<p>①「子育てするなら南箕輪村」と言われる現状の改善、子育て支援策の強化</p> <p>②避難所における防犯対策とスペース確保</p> <p>③防災用品の備蓄義務化など、市民の防災意識を高めるための施策</p> <p>④外国人向けの防災情報提供と、地域コミュニティへの組み込み</p> <p>⑤外国人や若者にも分かりやすい情報発信</p>
市議会としての考え・対応
<p>① 伊那市では、全国の移住者向けには、特色ある保育や教育環境をPRしており、移住マッチングサイト SMOUT では毎年1位に選ばれています。市民向けには、市公式HPや「伊那市子育てガイドブック」の配布などによるPRに努めています。市議会としては、市公式LINEの情報量が増えてきたことから、高校生など若い世代に公式LINEを使ってもらえるよう、周知をお願いしていきます。</p> <p>②～⑤ 伊那市では、②避難所におけるテント・パーティションの整備や女性の視点を踏まえた防犯対策、③公助（備蓄）と自助（個人備蓄）を組み合わせた備蓄の促進、④自主防災組織や支え合いマップ等による地域ぐるみの意識向上、⑤防災アプリ等を用いた多角的な情報発信など多極的な仕組みを整備している、としています。</p> <p>市議会としては、避難所でのプライバシー確保や多様なニーズへの対応を確実なものとするため、運営組織への「女性リーダー（防災コーディネーター）」の養成と登用や、各地区の防災力向上を図るために実効性を伴う組織体制の構築を働きかけてまいります。</p> <p>また、外国人や配慮が必要な方々など多様な市民へ情報を確実に届けるため、「やさしい日本語」や「ピクトグラム（図記号）」による視覚的な情報伝達への転換を図るなど、防災体制のユニバーサル化を求めてまいります。</p>

4 当日の様子

(1) 全体会



(2) グループ懇談



(3) 全体会（発表）

ア 高校生からの感想



イ 議員からの発表



ウ 講評



参加者の皆様

